

「英語表現」で結束性に焦点を

重永 晴子

1. はじめに

新科目「英語表現」では、従来の指導で見過ごされがちだった談話的視点からの首尾一貫性や、語彙・接続詞・代名詞等による結束性、さらにタスクの認識、丁寧さ、適切さ等に焦点をあてられると期待している。

自分の意見や考えなどを表現する自由英作文は、大学入試個別学力試験によく出題され、年々増加傾向にある。前後関係や文脈、背景を明示したタスクを設定し、2文以上のまとまった文章を書かせる必要がある。

生徒の書いた英作文を文法的結束性について分析したところ、いくつかの特徴が見えた。

2. 結束性とは

Celce-Murcia & Olshtain(2000)によると、結束性とは、テキストの表面に現れた明白な文法的、語彙的な結束関係である。

文法的結束性

- 指示表現
(前方照応, 後方照応, 外部照応)
 - ◇ 定冠詞
 - ◇ 代名詞
 - ◇ 指示詞
- 代用表現
- 省略
- 接続表現
等位接続詞, 従属接続詞, 接続副詞

3. 分析方法

3-1 定量的分析

生徒の書いた207作の論述文から、学習者コーパスおよびエラータグ付与のコーパスを構築し、Laurence Anthony氏(早稲田大学)開発のフリーソフトAntConcバージョン3.2.1を用い、結束性に関する誤用パターンを調べた。

<http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/>

学習者コーパスの延べ語数は18,376語、異なり語数は2,134語である。

エラータグ付きコーパスでは、次のタグを修正箇所の前に付与した。

- 冠詞 <art_er>
- 代名詞 <pron_er>
- 指示代名詞 <demo_er>
- 代用表現 <sub_er>
- 接続表現 <conj_er>

タグの後方に、ALTが訂正した添削後の語句(修正候補)、スラッシュ、生徒が誤用した語句の順で配置した。脱落や削除はnullと表記した。

[エラータグ付与例]

I agree with the idea that elementary school children have their cellphone. Many Japanese children often play outside late. In Japan, many kinds of accidents happen. <conj_er> Also/And <pron_er> the number of accidents is/they are on the increase in number. If <pron_er> children/they have their own cellphone, they can be touch with their parents easily. Their life can be protested by <art_er> null cellphones/the cellphone. <conj_er> Furthermore/And then, cellphone give us some useful games, such as test of kanji and test of English words. I think that <pron_er> children/they like <demo_er> these kind of games/it. <conj_er> because/Because they can study <art_er> while playing a game/like sense of game. <pron_er> Children/They can study by using cellphone. <conj_er> null/So, I agree with <demo_er> the idea that elementary school children should have their own cellphones/the idea.

注)

- 定冠詞のエラーは、単純な不定冠詞・無冠詞間の誤用をはじめ、代名詞、指示代名詞、数詞 one, many, a few, a lot of など、また、the number of, the amount of, などのイディオム、all of the, one of the へ修正が必要な場合などがあった。指示代名詞から後方照応的指示の the (the idea that ... など) に修正された場合も、冠詞 the の誤用に含めた。other から another および the から any への修正は不定冠詞のエラーとした。
- 代名詞のエラーは、冠詞の理解不足にも関連するが、代名詞に修正された箇所は代名詞のエラーとした。また、代名詞が名詞に修正されたものも代名詞のエラーに含めた。不要な指示代名詞 anyone, everything, someone などの誤用も代名詞のエラーとした。
- 代用表現のエラー(動詞代用 do so, do it, 節代用 so, it など)もまた、定冠詞や代名詞の誤用と絡んで発生するが、代用・省略を意図して表現したと思われる箇所は、代用表現のエラーとした。
- 接続表現のエラーには、等位接続詞、従属接続詞、接続副詞、Because の断片文を含む文頭使用の接続詞の他、first of all, for these reasons や、目的を表す不定詞の用法 in order to などの誤用や、at that time などを付加する修正候補なども、接続表現のエラーに含めた。

3-2 定性的分析

コンコダンス上で、文法的結束性に関するエラーを定性的に分析した。

[文例]

タスク: Do you agree or disagree with the idea that elementary school children should have their own cellphone? Give two possible reasons in 80-100 English words.

出題: 鹿児島大学医学部保健看護学科

(生徒原文)

I agree with the idea that elementary school children have their cellphone. Many Japanese children often play outside late. In Japan, many kinds of accidents happen. And they are on the increase in number. If they have their own cellphone, they can be touch

with their parents easily. Their life can be protested by the cellphone. And then, cellphone give us some useful games, such as test of kanji and test of English words. I think that they like it. Because they can study like sense of game. They can study by using cellphone. So, I agree with the idea. (100 words)

〈添削後〉

I agree with the idea that elementary school children **should** have their **own** cellphones. Many Japanese children often play outside late. In Japan, many kinds of accidents happen. **Also the number of accidents is** on the increase. If **children** have their own cellphones, they can be **in** touch with their parents easily. Their **lives** can be **protected** by **cellphones**. **Furthermore,** cellphone **have** some useful games such as **kanji** test and **games that** test English **vocabulary**. I think that **children** like **these kind of games because** they can study **while playing a** game. **Children** can study by using cellphones. I agree with the idea that elementary school children should have their own cellphones. (112 words)

注) 文法的結束性に関する訂正箇所には下線を施し、添削語の修正候補を太字にした。文法的結束性以外の修正箇所は下線なしの太字にした。

4. 結果

文法的結束性に関する誤用パターンの中で、冠詞のエラーが43.1%と最も高く、冠詞、代名詞、指示代名詞のエラーの合計が72.7%で、指示表現に関するエラーが多くを占めていることがわかる。

表1 エラー出現数とその頻度

	文法的結束性	エラー出現数	割合
1	冠詞	380	43.1%
2	代名詞	202	22.9%
3	指示代名詞	59	6.7%
4	代用・省略表現	15	1.7%
5	接続表現	226	25.6%
	合計	882	

冠詞

- 定冠詞の脱落が目立って見られる。定冠詞・不定冠詞を合わせると、その脱落の割合が58.5%と最も高く、次いで unnecessary 冠詞をつける誤用パターンが27.6%と高い。
- 無冠詞複数形 cellphones にすべき文脈で、定冠詞+単数可算名詞の the cellphone が見られる。
- the idea that... の用法を知っていても、the idea だけで「そのアイデア」(前方照応的用法の the)と済ませてしまいがちだが、パラグラフの必須条件である結論文で、自分の言いたいことを再度、主張して締めくくるには、どのような考えに賛成だと言っているのかを明確に述べる必要がある。
- 「ゲーム感覚で勉強する」を意図した生徒原文の study like sense of game study (修正後 study while playing a game)では語彙の連関に大いに原因があるが、不定冠詞(普通名詞 a game)と無冠詞(抽象名詞 game)の違いについての理解も必要である。
- 「ひとつの物を長く(大事に)使う」では、use one thing for a long time ではなく use the things we buy for a long time のように、「ひとつ」は数詞 one ではなく、後方照応的用法の定冠詞 the を用いる。母語干渉の発想で果たして意味を伝える表現になっているかに注意が必要である。

代名詞

- 代名詞が何を受けているのかが不明である、または誤解されるような場合は、たとえば、they を the number of accidents や children などの名詞で明示する。
- 意見の主張を述べる論述文において、アクションを起こすべき主体は、they よりも we や you のほうが効果的である。
- 所有代名詞の適切な用法に慣れる必要がある。we can save our natural resources for future generations. では natural resources は無冠詞ではなく所有代名詞が適切である。

指示代名詞

- 「それ」= it と処理しがちである。[文例]では代名詞 it に代えて、these kind of games を修正候補としている。語彙の結束性の問題でもあるが、下位概念である test や games を、上位概念

である games という語彙を用いてまとめ、指示詞 these を加えて these kind of games 「この種のゲームが好きである」と明確かつ具体的に「それ」の内容を表現すべきである。games を受けるには them であるべきところに it を誤用するような例も見られた。

代用表現

- 動詞代用 do so, do it, 節代用 so, it などは、定冠詞や代名詞の誤用と同様、コンテキストの意識が必要である。
- 会話では“I think so, too.”でよくても、エッセイでは I don't think the death penalty should be used for two reasons. のように、トピックセンテンスでは賛成か反対か自分の主張を、省略を用いず具体的かつ明確に述べる必要がある。

接続語句

- 接続詞 And を多用しがちであるが、重要な情報の追加には、Also がよい。
- 同様に、情報の追加を意図した接続詞 And then より、furthermore がよい。
- 接続詞 because の文頭での使用や、Because の断片文が多く見られる。
- 結論文に接続副詞 So がよく見られるが、必要としないし適切ではない。
- And, but, so, because の文頭使用は、so が81%と高く、次いで but の30%, because の23%で、and は8%であった。so を除いてはそれほど高頻度ではないが、標準的ではないこれらの表現の使用については指導を必要とする。
- the number of crimes decreased than the number of crimes before the death penalty had been done away with. ではなく、the number of crimes actually decreased after the death penalty had been done away with. とするなど、母語に干渉されない発想の転換が必要である。
- 「～のためである」は文脈により because (原因)なのか in order to (目的)のどちらなのかを混同しないようにする必要がある。
- likewise, similarly, in contrast, yet, instead, nevertheless, hence, that is to say は207例中では全く使用されておらず、

furthermore, moreover, besides, although, next, at last, that is, since, for instance はごくわずかしか使用されていなかった。first of all, at that time などが足りない例が見られた。論理展開に慣れていないことの表れであると思われる。

- 複数の理由を挙げた後の結論文には、for this reason ではなく for these reasons を用いることにも注意が必要である。

5. 考察

文法的結束性の中でも、とくに指示表現を苦手とする特徴が見られたが、結束性のセンスを養うには2文以上で英文を書く練習が欠かせないと思われる。また、話し言葉と書き言葉の違い、たとえば Because の断片文や、And, But, So, などは特に、早期の指導が必要であると考え。新科目「英語表現」では、リーディング、ライティング、オーラルコミュニケーションの学習活動を統合させたい。

100～200語程度の論理的で明快なテキストや、論理の展開に欠かせない語彙・連語リストを教材にする。社会性の高いトピックで、authentic なテキストが望ましい。接続詞や冠詞、指示代名詞などの論理的機能語を補充させるなど結束性に着目させる学習活動などが取り入れやすいと思われる。2・3文の英作文から入り、慣れてきたらテーマを与え、100語程度でエッセイを書かせ、そのエッセイをもとにして show and tell やディベートなどの言語活動に発展させたい。

学習者中心のアプローチやメタ認知・フィードバック活動のメリットを生かすよう、論理性や結束性の観点から添削指導した英作文のデータを、指導前の作文と比較して分析・評価し、適切なタイミングと方法でフィードバックすることが望まれる。生徒や教師がどのような問題を抱えているのかについてアンケートやインタビューをしたり、教育活動の経過や成果を教師間で共有したりして、指導に生かしていく環境づくりも大切である。

タスク例

Do you think that Japanese universities should shift undergraduate enrollment from spring to autumn in order to be in line with colleges worldwide? Give your opinion in an

essay around 100 words. Your essay must consist of three paragraphs according to the following instructions:

- In the first paragraph of the essay, express your opinion.
- In the second paragraph, give your reasons to support your opinion.
- In the last paragraph, sum up your main points in conclusion.

参考文献

- 石川慎一郎(2008).『英語コーパスと言語教育—データとしてのテキスト』大修館書店。
- 大井恭子 他(2008).『パラグラフ・ライティング指導入門 中高での効果的なライティング指導のために』大修館書店。
- 小林雄一郎(2009a).「日本人英語学習者の英作文における because の誤用分析」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』23, 11-21.
- 小林雄一郎(2009b).「日本人学習者の英作文における“so”の統計的分析」石川慎一郎(編)『コーパス言語研究における量的データ処理のための統計手法の概観』(統計数理研究所共同研究リポート 232), 107-118.
- 投野由紀夫(編)(2007).『日本人中高生一万人の英語コーパス“JEFL Corpus”—中高生が書く英文の実態とその分析』東京：小学館。
- Celce-Murcia, M., & Olshtain, E. (2000). *Discourse and Context in Language Teaching. A guide for language teachers.* Cambridge: Cambridge University Press.
- Liu, M., & Braine, G. (2005). *Cohesive features in argumentative writing produced by Chinese undergraduates.* System, 33, 623-636.
- Narita, M., Sato, C., & Sugiura, M. (2004). *Connector Usage in the English Essay Writing of Japanese EFL Learners.*
<http://oscar.gsid.nagoya-u.ac.jp/paper/publication.html>

(熊本県立熊本工業高等学校教諭)